

産地情勢 (2024.2.19)

ブラジル産とうもろこし

サフリナ・コーンの作付けは 38%進捗した。(昨年 25%) 大豆・とうもろこしともに価格が下落してコスト割れしているため、生産者がサフリナ・コーンの作付けを断念し、作付面積が減少する可能性がある。(2月14日)

作付け遅れとシカゴ定期の下落で作付面積の減少が懸念されていたが、サフリナ・コーンの産地調査の結果、ブラジル国家食糧供給公社は、23/24年度の生産見通しを4百万トン引き下げ113.6百万トンとした。(2月9日)

ブラジル国家食糧供給公社は、高温乾燥による作付面積と単収減少で23/24年度の生産見通しを0.9百万トン引き下げ117.6百万トンとした。10月の高温乾燥気候が災いした。(1月11日)

クロープカレンダー	作付期	受粉期	収穫期	割合	特徴
フルシーズン・コーン (夏作)	8-9月	11-12月	2-5月	22%	主に国内飼料需要向
サフリナ・コーン (冬作)	1-3月上旬	4月	6-8月	76%	輸出の中心 大豆収穫後に作付

ブラジル産大豆

収穫は23%進捗した。(平年20%) (2月14日)

ブラジル国家食糧供給公社は、23/24年度の生産見通しを5.9百万トン引き下げ149.4百万トンとした。(2月9日)

収穫は16%進捗した。(平年10%) 収穫が進むにつれ10-11月の高温乾燥時に成熟期を迎えた早蒔き大豆の低単収が明らかとなっている。(2月7日)

ブラジル国家食糧供給公社は、高温乾燥による作付面積と単収減少で23/24年度の生産見通しを4.9百万トン引き下げ155.3百万トンとした。(1月11日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクロープカレンダー	9月-12月初め	1月	1月-4月

アルゼンチン産とうもろこし

ブエノスアイレス穀物取引所は 2023/24 年度の生産予想を 150 万トン増加し、5650 万トンとした。(1月30日)

作付けは 85%進捗した。天候は改善し生産量は当所見通しより増加しそうである。(1月16日)

とうもろこしの作付けができなかった生産者が大豆に転換してとうもろこしの作付面積が減少するとみられる。(11月15日)

備考	作付期	受粉期	収穫期
作付は2段階に分かれる。	9-11月始め	12-1月	3-4月
	12-1月	3-4月	6-7月

アルゼンチン産大豆

開花は 50%進捗した。

作付けは 93%進捗した。天候は改善し生産量は当所見通しより増加しそうである。(1月16日)

北部産地で早植えのとうもろこしの作付けができなかった生産者が大豆に転換して大豆の作付面積が増加するとみられる。(11月15日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクロープカレンダー	10月-1月中旬	2月	3-6月

以上、Soybean and Corn Advisor, Inc. Corn+soybean digest より

米国農務省生産量予測 (2月8日)

とうもろこし

(百万トン)

	2021/22	2022/23	2023/24
米国 (9-8月)	381.5	346.7	389.7
ブラジル (3-2月)	116.0	137.0	124
アルゼンチン (〃)	49.5	34.0	55

- ・米国は 2023/24 年度の工業需要が 10 百万ブッシェル減少した為、期末在庫率は 14.9%に 0.1%増加した。
- ・ブラジルは 2023/24 年度の実産量が 3 百万トン減少。
- ・アルゼンチンは 2022/23 年度の実産量が百万トン増加。

大豆

(百万トン)

	2021/22	2022/23	2023/24
米国 (9-8月)	121.5	116.2	113.3
ブラジル (2-1月)	130.5	162.0	156
アルゼンチン (4-3月)	43.9	25.0	50

・ブラジルの 2022/23 年度の生産量が 2 百万トン増加、23/24 年度は百万トン減少した。

*北半球の穀物年度は 21/22 の場合、2021 年の月から始まるが南米は 2022 年の月から始まる。(USDA)